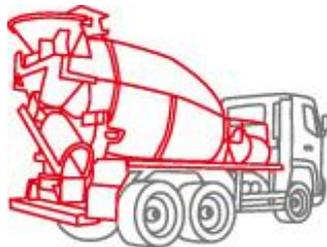
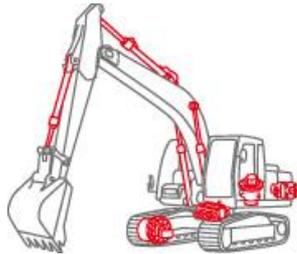


**KYB**

*Our Precision, Your Advantage*



# 平成28年3月期 決算説明会

2016年5月12日

KYB株式会社  
(証券コード 7242)

平成28年3月期

## 総括

代表取締役 社長執行役員

中島 康輔

平成28年3月期

## 業績概要

取締役専務執行役員

加藤 孝明

## 社長就任以来、国内外のお客様・生産拠点を訪問



15年10月 米州  
お客様・拠点訪問



15年11月 欧州  
お客様・拠点訪問



15年11月 インド  
お客様・拠点訪問



15年5月 ASEAN  
お客様・拠点訪問



15年8月 台湾  
お客様・拠点訪問



15年12月 中国  
お客様各社訪問



世界に広がる  
グローバル  
ネットワーク

市場拡大を  
阻害する要因  
が増加

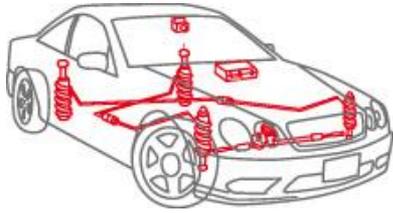
品質問題  
早期解決

革新的  
モノづくり

需要に見  
合った体質  
への転換

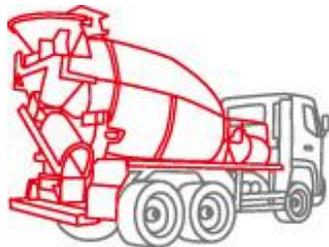
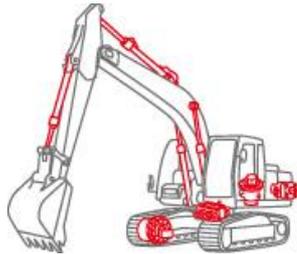
競争を  
凌駕する  
商品開発

現場力を高め、世界中のお客様に  
満足いただけるKYBを目指す



**KYB**

*Our Precision, Your Advantage*



# 平成28年3月期 総括

KYB株式会社  
代表取締役 社長執行役員  
中島 康輔

# 2015年度 連結決算総括



Our Precision, Your Advantage

(単位: 億円)

	2014年度	2015年度		増減額	
	実績	2月予想(※)	実績	(前年同期比)	(2月予想比)
売上高	3,704	3,620	3,554	△150	△66
営業利益	136	137	156	+20	+19
経常利益	159	133	143	△16	+10
当期純利益	71	18	△22	△93	△40
配当	12円 (記念配当2円)	11円	11円	△1	±0

※ 2016年2月2日発表の業績予想数値

## ■ 為替レート (平均レート)

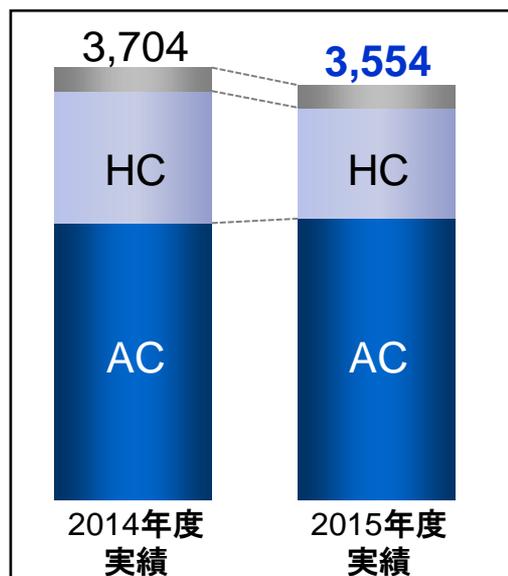
	2014年度実績	2015年度実績
円 / US\$	109.93円	120.15円
円 / EUR	138.77円	132.57円

# 2015年度 連結決算事業別実績(売上高)



Our Precision, Your Advantage

## ■ 売上高 (単位: 億円)



	2014年度	2015年度	増減額(前年比)	
	実績	実績		
A C 事業	2,371	<b>2,409</b>	+39	+1.6%
H C 事業	1,132	<b>951</b>	△181	△16.0%
特装システム等	201	<b>193</b>	△8	△4.1%
<b>合計</b>	<b>3,704</b>	<b>3,554</b>	<b>△150</b>	<b>△4.1%</b>

AC事業: オートモーティブ・コンポーネンツ事業

HC事業: ハイドロリック・コンポーネンツ事業

特装システム等: 特装車両、システム製品および電子機器等

## ■ 売上高の増減要因



AC事業: 四輪SA事業(北米OEMおよび中東向け市販)好調



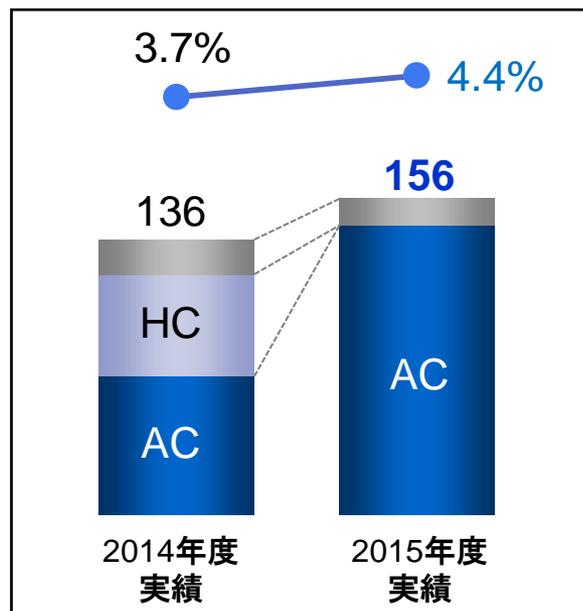
HC事業: 中国建機市場低迷により、中型ショベル向け売上大幅減

SA: ショックアブソーバ(四輪車用緩衝器)

# 2015年度 連結決算事業別実績(営業利益) **KYB**

Our Precision, Your Advantage

## ■ 営業利益 (単位: 億円)



	2014年度	2015年度	増減額(前年比)	
	実績	実績		
A C 事業	69	143	+74	+106.4%
H C 事業	50	△0	△50	—
特装システム等	17	13	△3	△20.1%
合計	136	156	+20	+14.9%

## ■ 営業利益の増減要因

 AC事業: 増収効果、品質関連引当金減少、経費抑制等による利益大幅増

 HC事業: 経費抑制効果を上回る減収の影響により利益大幅減

## ■ 経常利益の増減要因

	円高に伴う為替差損益の影響	△34億円
	持分法投資損益の影響 (ブラジル関連会社のレアル安に伴う業績悪化)	△13億円

## ■ 当期純利益の増減要因

	投資有価証券売却	19億円
	米国独占禁止法関連損失	△82億円
	減損損失の増加 (中国HC子会社の収益性低下に伴う減損損失35億円)	△20億円

# 2016年度 連結決算見通し



Our Precision, Your Advantage

(単位: 億円)

	(日本基準)	(IFRS)			増減額
	2015年度	2016年度			
	通期実績	上期見通し	下期見通し	通期見通し	(前年比)
売上高	3,554	1,700	1,720	<b>3,420</b>	△134
営業利益	156	55	75	<b>130</b>	△26
経常利益	143	-	-	<b>-</b>	-
当期純利益	△22	31	48	<b>79</b>	+102
配当	11円	5	6	<b>11円</b>	±0

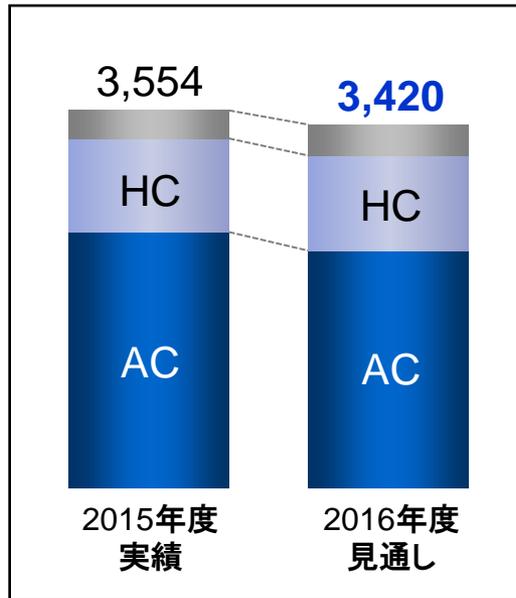
## ■ 為替レート (平均レート)

	2015年度実績	2016年度想定
円 / US\$	120.15円	<b>105.00円</b>
円 / EUR	132.57円	<b>120.00円</b>

# 2016年度 連結決算事業別見通し(売上高) **KYB**

Our Precision, Your Advantage

## ■売上高 (単位: 億円)



	(日本基準)	(IFRS)	増減額(前年比)	
	2015年度	2016年度		
	実績	見通し		
A C 事業	2,409	<b>2,232</b>	△178	△7.4%
H C 事業	881	<b>896</b>	+15	+1.7%
特装システム等	264	<b>292</b>	+29	+10.9%
<b>合計</b>	<b>3,554</b>	<b>3,420</b>	<b>△134</b>	<b>△3.8%</b>

### 【開示上の変化点】

航空事業の開示セグメントを「HC事業」から「特装システム等」に変更

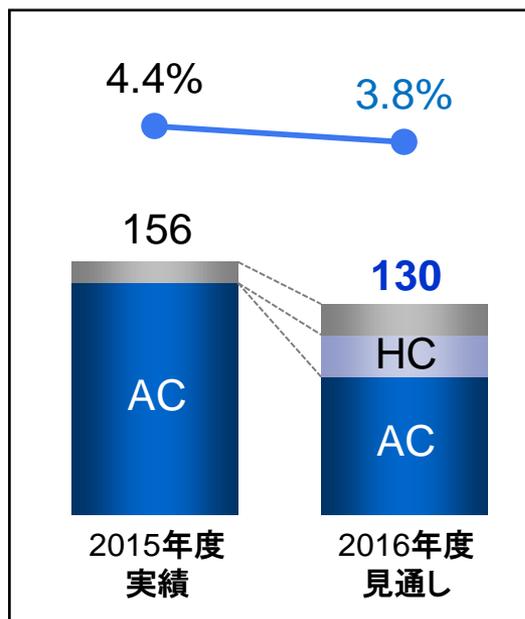
### 【上記表の航空事業の扱いについて】

2015年度:特装システム等 2016年度:特装システム等

## ■売上高の増減要因

 **AC事業: 為替影響による減収**

## ■ 営業利益 (単位: 億円)



	(日本基準)	(IFRS)	増減額(前年比)	
	2015年度	2016年度		
	実績	見通し		
A C 事業	143	85	△59	△40.8%
H C 事業	△0	26	+27	—
特装システム等(※)	13	19	+6	43.7%
<b>合計</b>	<b>156</b>	<b>130</b>	<b>△26</b>	<b>△16.7%</b>

### 【開示上の変化点】

航空事業の開示セグメントを「HC事業」から「特装システム等」に変更

### 【上記表の航空事業の扱いについて】

2015年度:HC事業 2016年度:特装システム等

## ■ 営業利益の増減要因



AC事業: 為替影響による減益

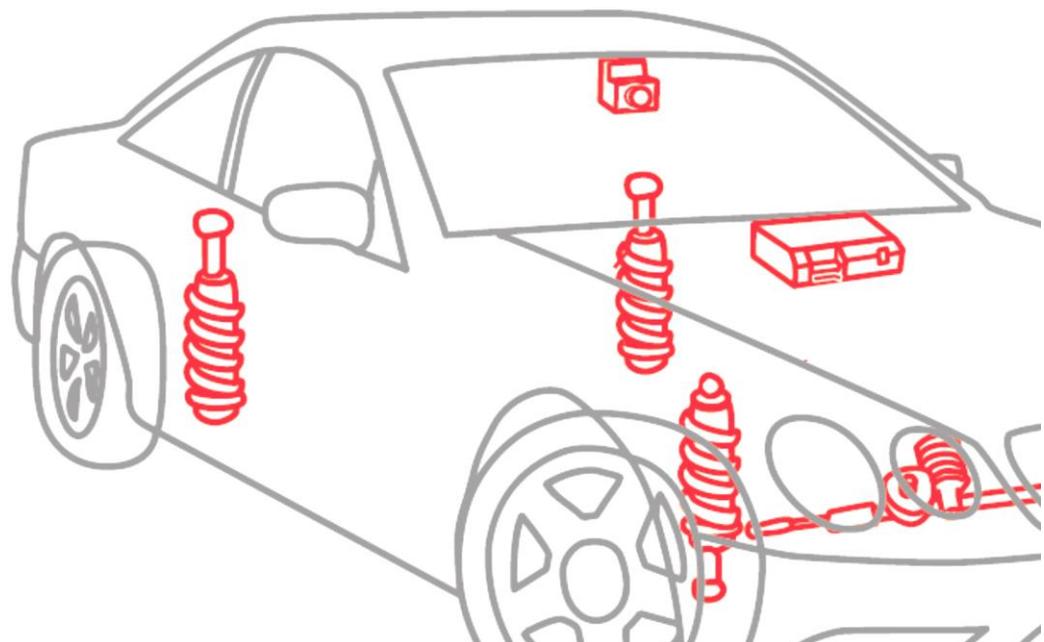


HC事業: 構造改革効果



*Our Precision, Your Advantage*

# 事業の状況

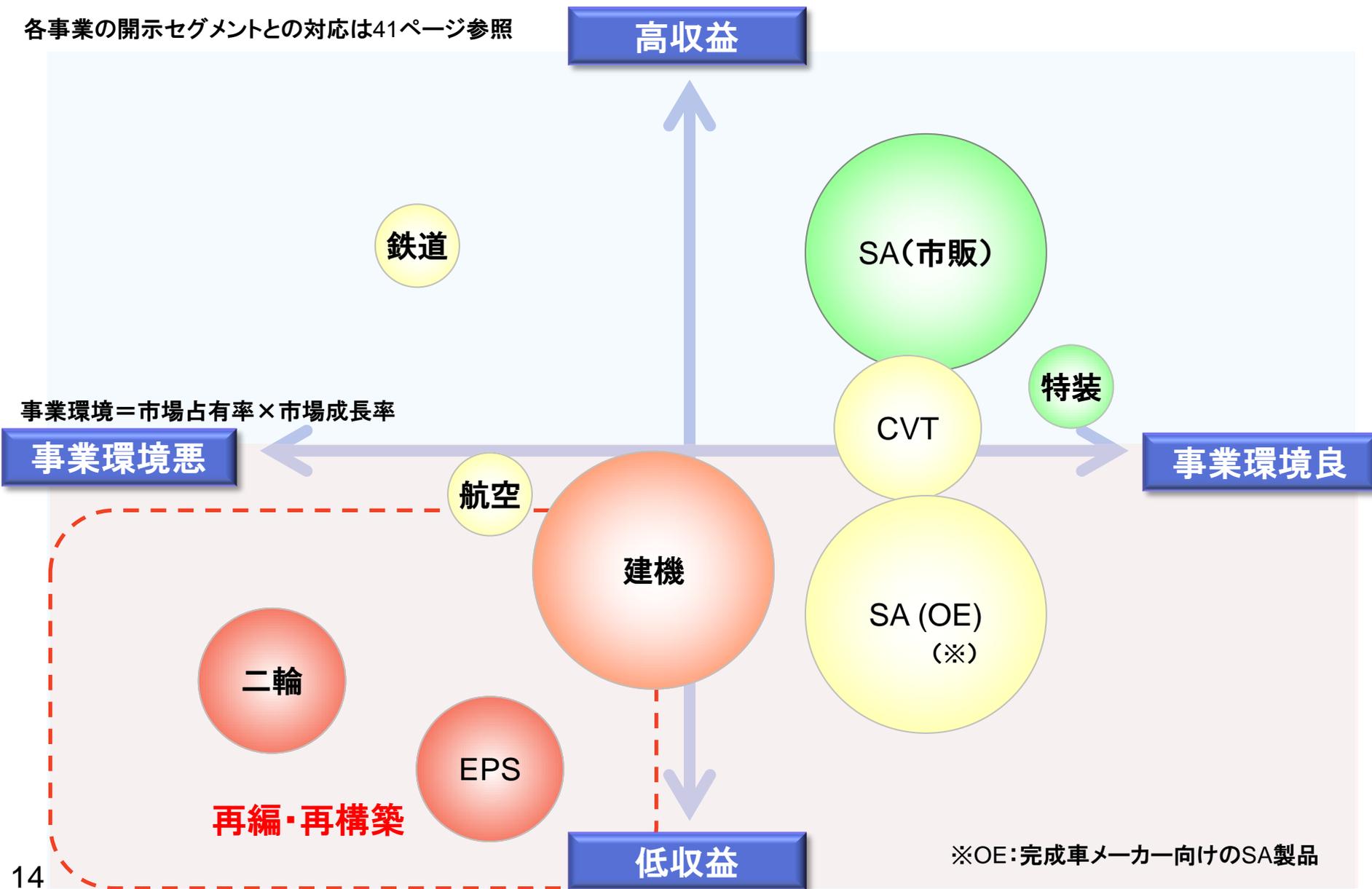


# 各事業の状況



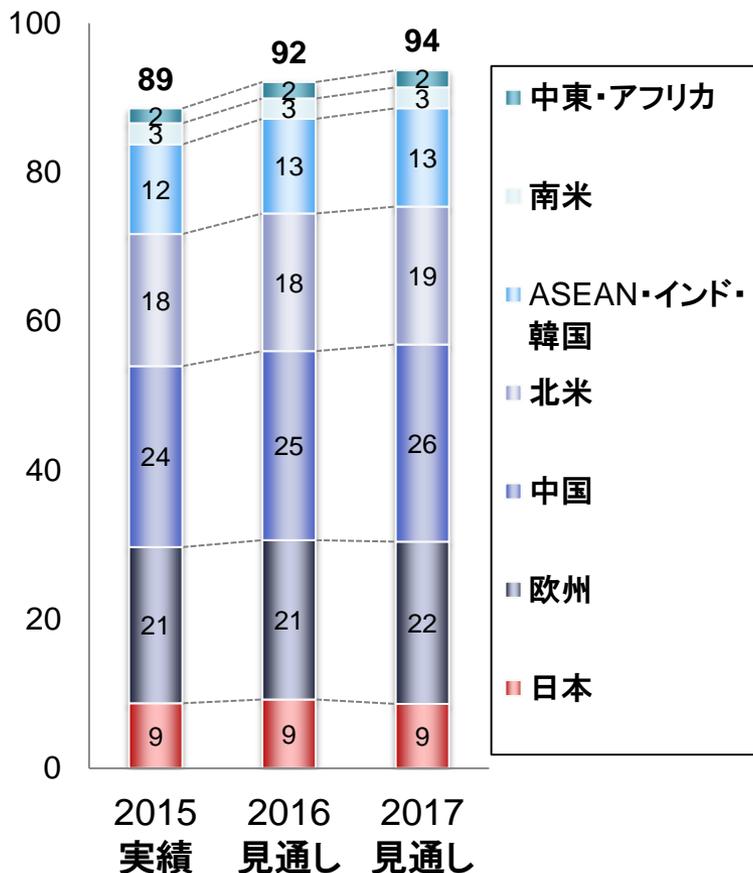
Our Precision, Your Advantage

各事業の開示セグメントとの対応は41ページ参照



## ■自動車生産台数予測

(単位: 百万台、集計対象: 乗用車+小型トラック)



出典: IHS 2016年4月度データ

## ■環境認識

### グローバル

:16年度生産台数は対前年比微増  
中国経済の低迷や資源国通貨安等、世界的な景気減速懸念

### 国内

:生産台数は横ばい  
低価格車・環境適応車へ移行

## ■16年度重点取り組み

- ✓ 付加価値商品開発
- ✓ 革新的モノづくり
- ✓ 市販製品の拡販による利益拡大

## 電子制御サスペンション

高付加価値化／乗り心地向上



## 軽量化

低燃費／環境配慮



### ■付加価値商品動向

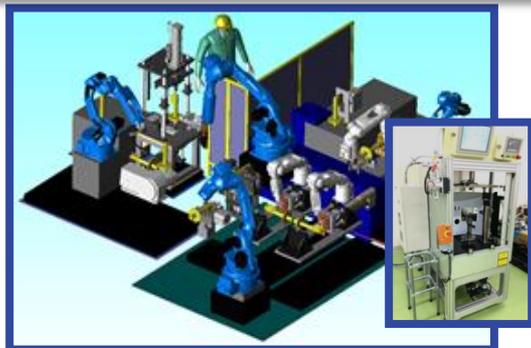
	電子制御サスペンション	軽量化
市場動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発は欧州勢が先行</li> <li>・ボリュームゾーンは非日系</li> </ul>	<p>欧州：軽量化技術で先行 日本：環境適応車を中心にお客様の軽量化要求が本格化</p>
当社の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日系顧客への絶対的基盤に基づく先行共同開発</li> <li>・欧州主要顧客との基盤を生かした拡販活動</li> <li>・小型車への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日系顧客への絶対的基盤に基づく先行共同開発</li> <li>・欧州開発拠点による先端技術開発・導入</li> </ul>
出荷高採用見込み	<p>2016年度：量産開始 2020年度：60億円</p>	<p>2015年度 ：トヨタ プリウスで中空ロッド採用 →他製品含め随時お客様へ提案実施</p>

## ■ 革新的コンパクト自動化ライン

これまで	これから
✓ 大ロット生産	⇒ <b>小ロット生産化</b> (急激な量変動・少量多品種生産への柔軟な対応)
✓ 手動生産	⇒ <b>自動化</b> (ヒューマンエラー排除による品質向上・コスト競争力の向上)
✓ 拠点別ライン投入	⇒ <b>全世界対応ライン化</b> (仕様統一化によるライン・製品開発スピード向上)

## ■ 新ショックアブソーバラインの特徴 (2016年度日本立ち上げ)

自動溶接・組立・検査  
(省人・高速化)



コンパクト塗装設備  
(リードタイム短縮・在庫圧縮)



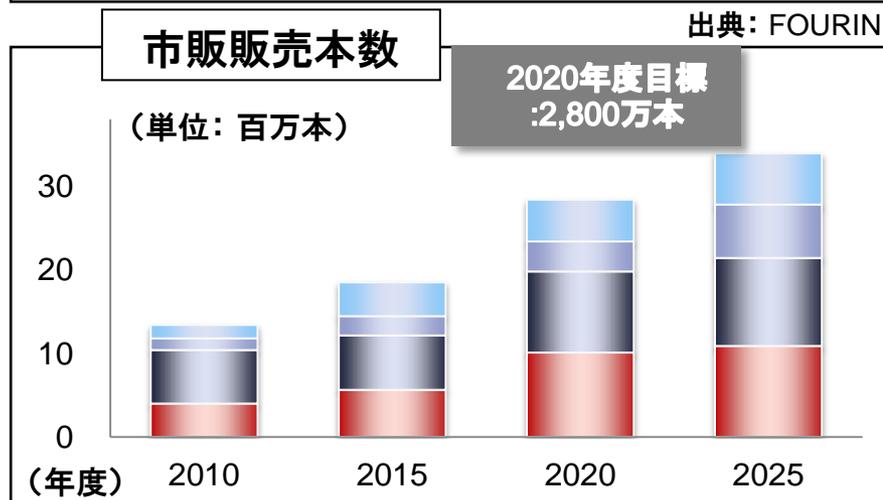
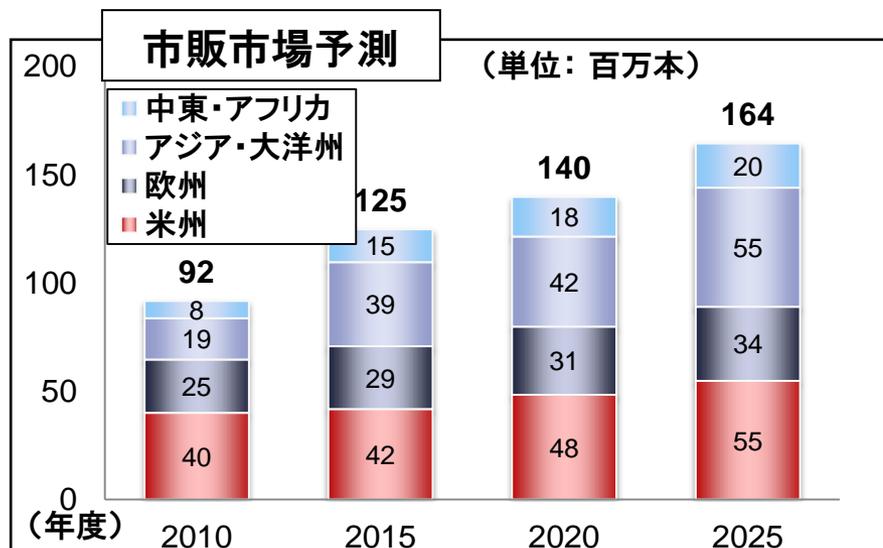
新ラインによる効果: 要員**1/2**、段替え時間**1/2**、リードタイム**1/3**、加工費**15%減**(1本当たり)  
新ライン目標値: 生産性25%向上、自動化率75%

- ・新ラインを順次全拠点へ展開
- ・ライン情報をリアルタイムで吸い上げ、異常の早期発見から不具合を未然に防止

**強み** : グローバルの生産・販売ネットワーク網 / **93%<sup>(※)</sup>** の高いカバレッジ率

**全体戦略**: 世界中どこからでも供給・販売できる体制

(※) 欧米車・日本車のカバレッジ率



## 市販戦略

### 本数重視から利益重視へ

北米新ジャンルへの参入によるビジネス純増

高付加価値製品の拡販

メキシコ・ブラジルでの販売ネットワーク拡大

欧州域の倉庫合理化による経費削減

アフリカ市場での拡販

アセアンのトラック市場への参入

中国・オーストラリア・メコン市場での日本車・欧米車アプリの拡充・拡販

### 世界最適供給体制の拡充

グローバルに配置した12の生産拠点を活用した最適調達

為替変動を踏まえた柔軟な調達体制

## 課題

## 対策

### 二輪

中国・アセアン地区の販売台数減少  
⇒供給能力過剰

国内生産機種 of 海外移管  
⇒国内収益悪化

### 供給体制

ベトナム・インドへの集約とその他  
拠点の縮小・再編  
(1,100万本→700万本へ能力削減)  
アセアン向け原価低減モデルの開発

### 国内

電子制御サスペンション開発

### EPS

自動運転の進展  
⇒高度化する技術開発への対応

EPS普及による市場価格低下  
⇒収益性悪化

### 技術開発

電子技術開発体制の充実  
外部リソースの有効活用

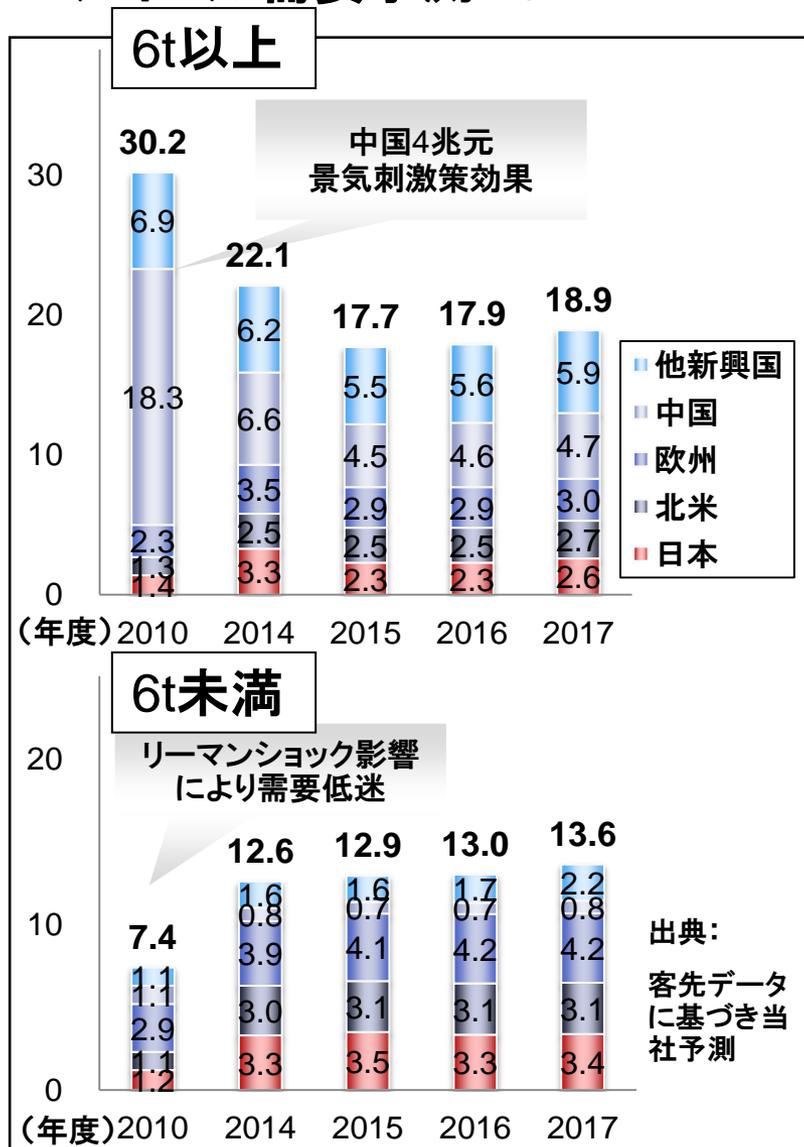
### 収益性改善

原価低減EPSモデル設計

### 新市場への拡販

ATV/UTV(※)・建機/農産機への  
EPS拡販

## ■ ショベル需要予測 (単位: 万台)



## ■ 環境認識

### 6t以上

:2010年度をピークに需要低下  
 大幅な成長期待できず先行き不透明  
 中国 低迷長期化  
 北米 資源開発向け需要低調

### 6t未満

:都市化の進展により、都市型建機としてのミニショベルは成長市場であり  
 今後も緩やかに需要増加

## ■ 16年度重点取り組み

- ✓ 構造改革の完遂
- ✓ 非ショベル比率拡大

## ■進捗状況

### 再編

国内外の拠点再編 ⇒ 済  
中国製造2拠点の統合／中国販売2拠点の統合／国内製造2拠点の統合  
⇒2016年4月1日完了  
統合効果:人件費減、業務委託費減 等

既存の事業枠組みを超えた再編

### 再配分

需要予測見直しに伴うラインのスリム化 ⇒ 済  
シリンダ生産ラインの削減  
日本15,000本/月→12,000本/月 中国12,000本/月→6,000本/月

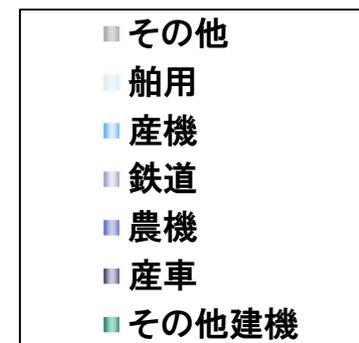
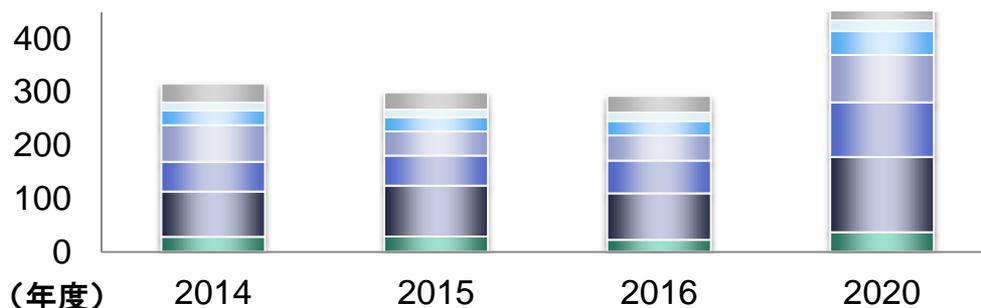
人員の整理・再配置 ⇒ 進行中  
中国拠点人員 2年間で200名規模の削減

# HC事業の状況—非ショベル拡大



Our Precision, Your Advantage

## ■非ショベル販売見通し (単位: 億円)



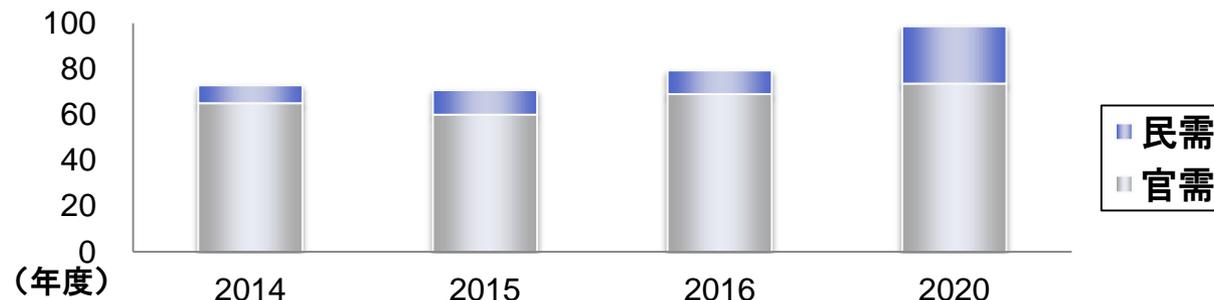
## ■非ショベル戦略

	環境	戦略
その他建機	マイニングダンプ総需要: 1,000台/年 大手建機メーカー3社で市場は寡占	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ショベル用シリンダ生産設備活用</li> <li>✓ サスペンション・ホイスト用シリンダ開発</li> <li>⇒ サスペンション技術とシリンダ技術の融合</li> </ul>
農機	人口増・新興国発展・格差対策 農業機械化は今後も進む	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高効率・電子制御品を先進国に拡販</li> <li>✓ 実績のある普及品を新興国に拡販</li> </ul>
鉄道	新興国の経済成長等により今後更に拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新製品投入を軸に日本でのシェア拡大と海外顧客への拡販</li> </ul>

## 2016年1月1日航空機器事業部新設

- 設立の狙い: 成長産業である航空事業の機動性向上
- 取扱製品: アクチュエータ、バルブ、ホイール、ブレーキ 等
- 開示上の変化点: 開示セグメントをHC事業から**その他セグメント**に変更

### ■ 航空販売見通し (単位: 億円)



民需比率

2015年度 15%



2020年度 25%

### ■ 重点取り組み

- 民需: 既存顧客への販売拡大および新規顧客の開拓  
北米駐在員事務所の再開による北米対応の強化
  - 官需: 新規プログラムへの参画、修理事業の拡大活動
- ⇒ 官需を基礎とした民需の拡大

【Boeing Performance Excellence 受賞履歴】 2012年度: GOLD prize  
2015年度: SILVER prize



## 環境・市場動向

## 2016年度重点取り組み

### 特装事業

- ・建築費高騰を背景に国内市場は一時的に頭打ち
- ・インドは成長市場  
(年率30~40%成長)

- ✓国内:市場動向に即応できる生販技体制の確立
- ✓インド:生産体制強化プロジェクト立上
- シェア 2015年度実績 4.5%  
2016年度目標 15.0%

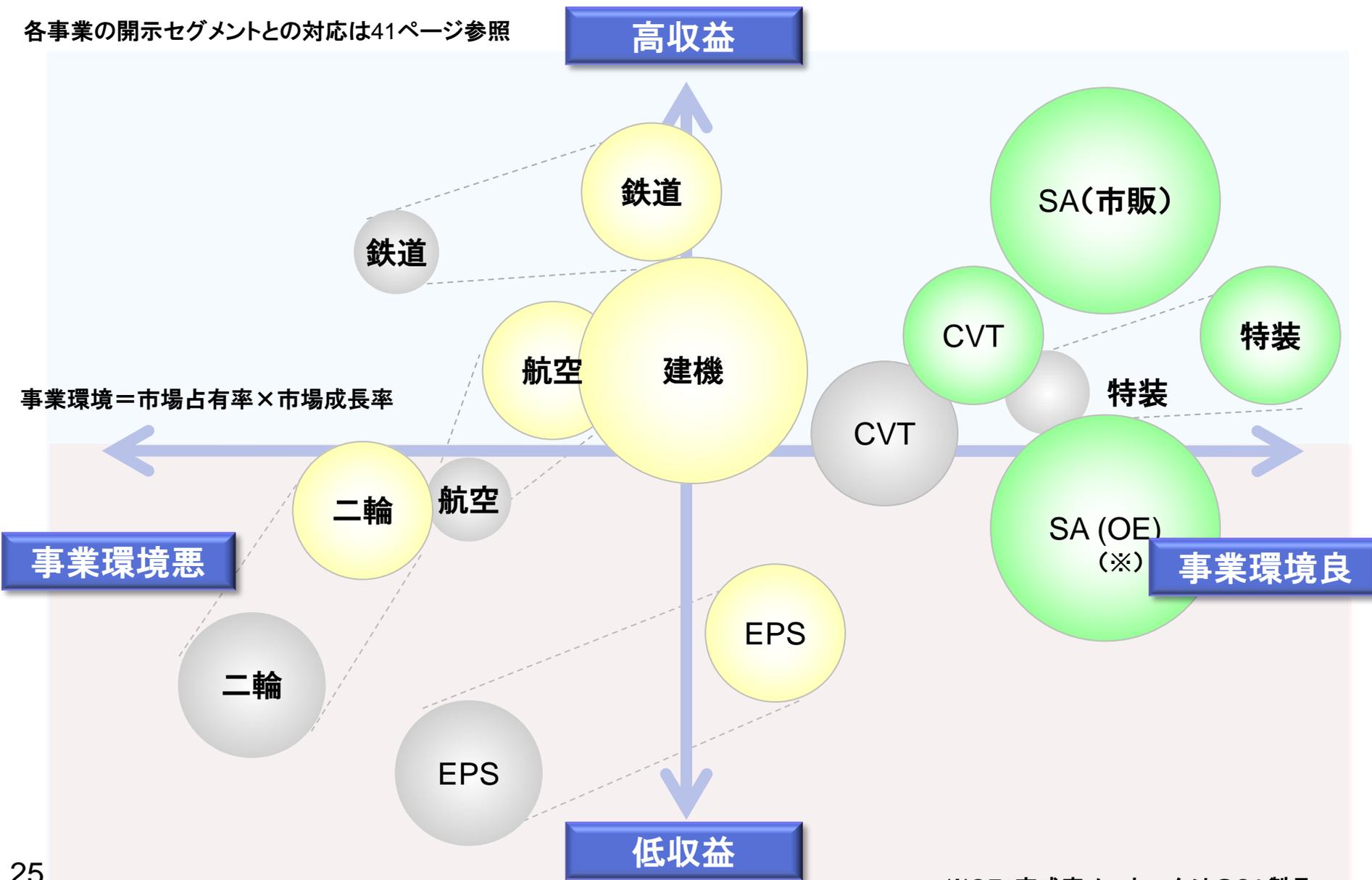
### 免制震装置

- ・国内4社に集約  
(当社シェア約50%)
- ・スーパーゼネコン各社は長周期地震動対策に注力

- ✓長周期地震動対策を喫緊の課題として、開発力をもって競合と差別化
- ✓提案型営業への転換

# 各事業の目指す姿

各事業の開示セグメントとの対応は41ページ参照



※OE: 完成車メーカー向けのSA製品

## 2016年度スローガン

KYBグループ機能一体活動により  
世界のお客様の信頼と受注獲得

～次期中期への飛躍～

### モノづくり

品質向上と  
生産性向上による  
コスト競争力確保

### 技術商品開発

競争を上回る新製品  
新技術開発・  
各地域での受注獲得

### 生・販・技一体

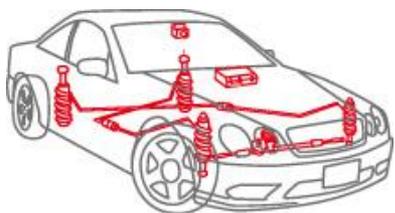
グローバルでの情報共有  
及び一体活動により  
受注獲得

### 人財育成

上記を成し遂げるためのグローバルでの人財育成と確保を実施

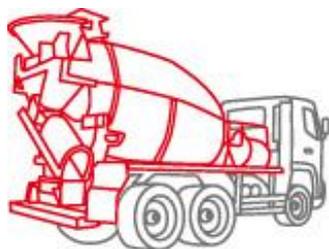
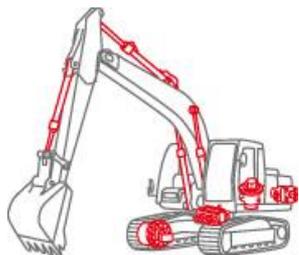
### マネジメント

グループ最適化のためのマネジメント活動



**KYB**

*Our Precision, Your Advantage*



# 平成28年3月期 業績概要

KYB株式会社  
取締役専務執行役員  
加藤 孝明

# 2015年度 連結決算実績詳細



Our Precision, Your Advantage

		2014年度 実績	2015年度 実績	増減額
売上高 (億円)	四輪車用緩衝器	1,591	1,626	+35
	二輪車用緩衝器	267	263	△3
	四輪車用油圧機器	459	463	+4
	その他緩衝器	54	57	+3
	<b>A C 事業計</b>	<b>2,371</b>	<b>2,409</b>	<b>+39</b>
	産業用油圧機器	976	799	△177
	航空機用油圧機器	73	71	△2
	その他油機	84	82	△2
	<b>H C 事業計</b>	<b>1,132</b>	<b>951</b>	<b>△181</b>
	特装車両	84	90	+6
	装置・電子他	117	103	△14
	<b>特装システム等計</b>	<b>201</b>	<b>193</b>	<b>△8</b>
	<b>合 計</b>	<b>3,704</b>	<b>3,554</b>	<b>△150</b>
営業利益 (億円)	A C 事業	69	143	+74
	H C 事業	50	△0	△50
	特装システム等	17	13	△3
	<b>合 計</b>	<b>136</b>	<b>156</b>	<b>+20</b>



**AC事業:** 四輪SA(北米OEMおよび中東向け市販)好調  
品質関連引当金減少、経費抑制等による利益大幅増



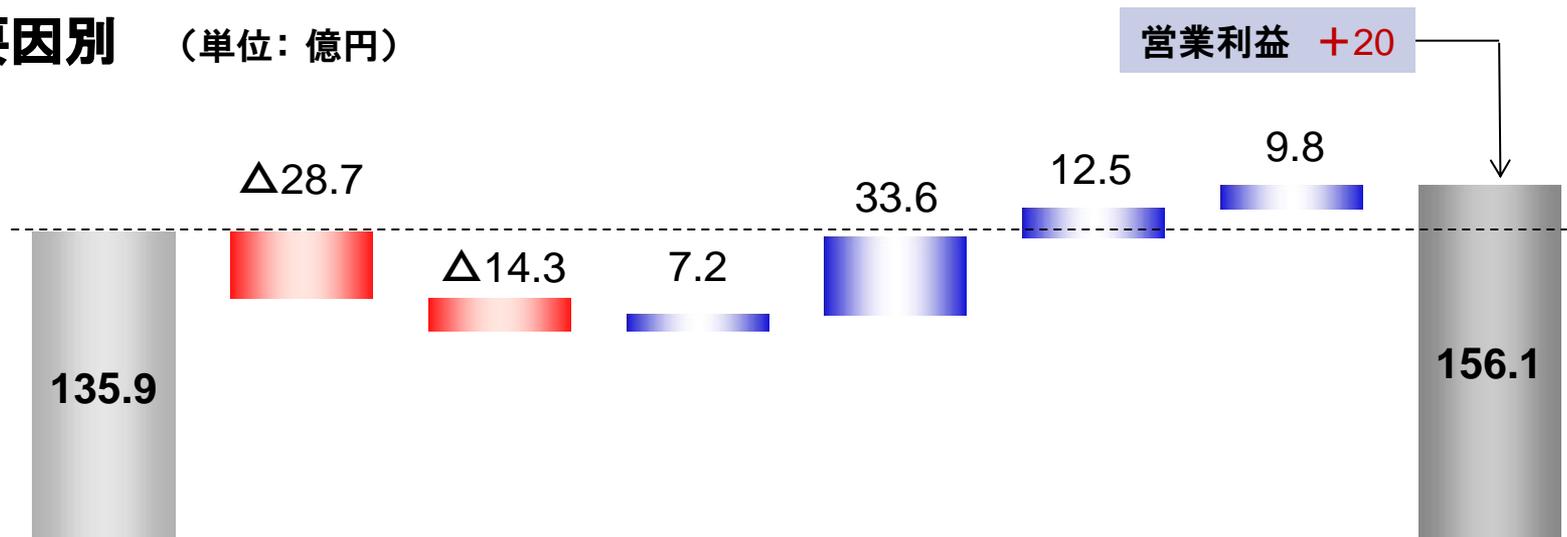
**HC事業:** 中国建機市場低迷により、中型ショベル向け売上大幅減

# 2015年度 連結営業利益増減



Our Precision, Your Advantage

## ■ 要因別 (単位: 億円)



	2014年度実績	売上・変動費要因	償却費	人件費	その他経費改善	新拠点	その他	2015年度実績
AC事業	69	+67	△11	△13	+20	+13	△2	<b>143</b>
HC事業	50	△90	△2	+19	+16	△1	+7	<b>△0</b>
特装等	17	△6	△1	+1	△3	-	+5	<b>13</b>
全社	136	△29	△14	+7	+34	+13	+10	<b>156</b>

(※1)売上・変動費要因 :品質関連の引当金PLインパクト差による増益効果(+33億円)含む

新拠点

:新たに事業を開始したインドAC拠点(KMSI)・メキシコAC拠点(KMEX)および  
インドネシアHC拠点(KHMI)の営業利益増減

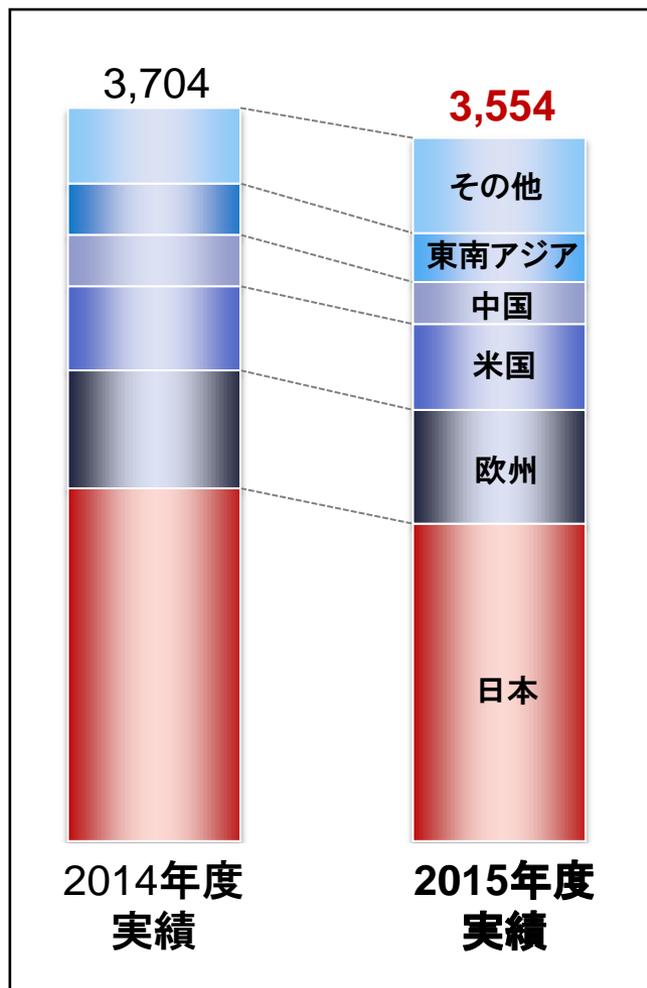
(※2)上記分類とは異なり、全社での為替による営業利益への影響は、+12億円

# 2015年度 連結売上高(地域別)



Our Precision, Your Advantage

## ■ 地域別売上高 (単位: 億円)



	2014年度	2015年度	増減率
	実績	実績	(前年比)
日 本	1,783	1,604	△10.0%
欧 州	596	575	△3.5%
米 国	425	434	+2.1%
中 国	260	212	△18.3%
東南アジア	259	247	△4.6%
そ の 他	382	481	+26.0%
<b>合 計</b>	<b>3,704</b>	<b>3,554</b>	<b>△4.1%</b>

海外売上高比率

51.9% → 54.9%

# 2016年度 連結決算見通し詳細



Our Precision, Your Advantage

		(日本基準)	(IFRS)	増減額
		2015年度	2016年度	
		実績	見通し	
売上高 (億円)	四輪車用緩衝器	1,626	1,468	△158
	二輪車用緩衝器	263	241	△22
	四輪車用油圧機器	463	460	△3
	その他緩衝器	57	63	+6
	<b>A C 事業計</b>	<b>2,409</b>	<b>2,232</b>	<b>△178</b>
	産業用油圧機器	799	816	+18
	その他油機	82	80	△2
	<b>H C 事業計</b>	<b>881</b>	<b>896</b>	<b>+15</b>
	特装車両	90	91	±0
	航空機用油圧機器	71	80	+9
	装置・電子他	103	122	+19
	<b>特装システム等計</b>	<b>264</b>	<b>292</b>	<b>+29</b>
<b>合計</b>	<b>3,554</b>	<b>3,420</b>	<b>△134</b>	
営業利益 (億円)	A C 事業	143	85	△59
	H C 事業	△0	26	+27
	特装システム等	13	19	+6
	<b>合計</b>	<b>156</b>	<b>130</b>	<b>△26</b>

航空事業の扱いは11・12ページに記載のとおり

# 2016年度 連結営業利益増減

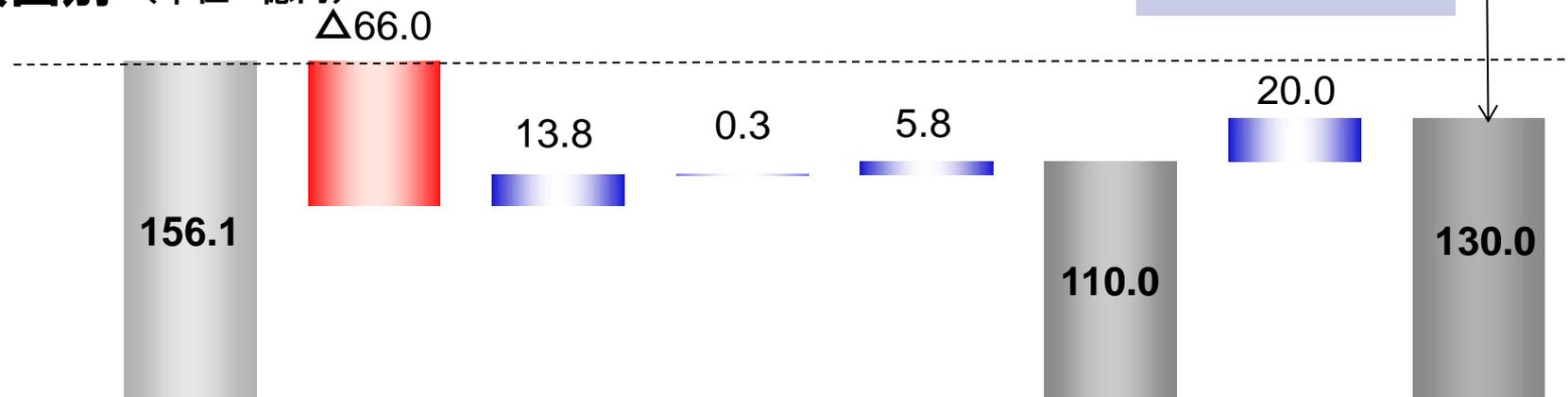


Our Precision, Your Advantage

## ■ 要因別

(単位: 億円)

営業利益 ▲26

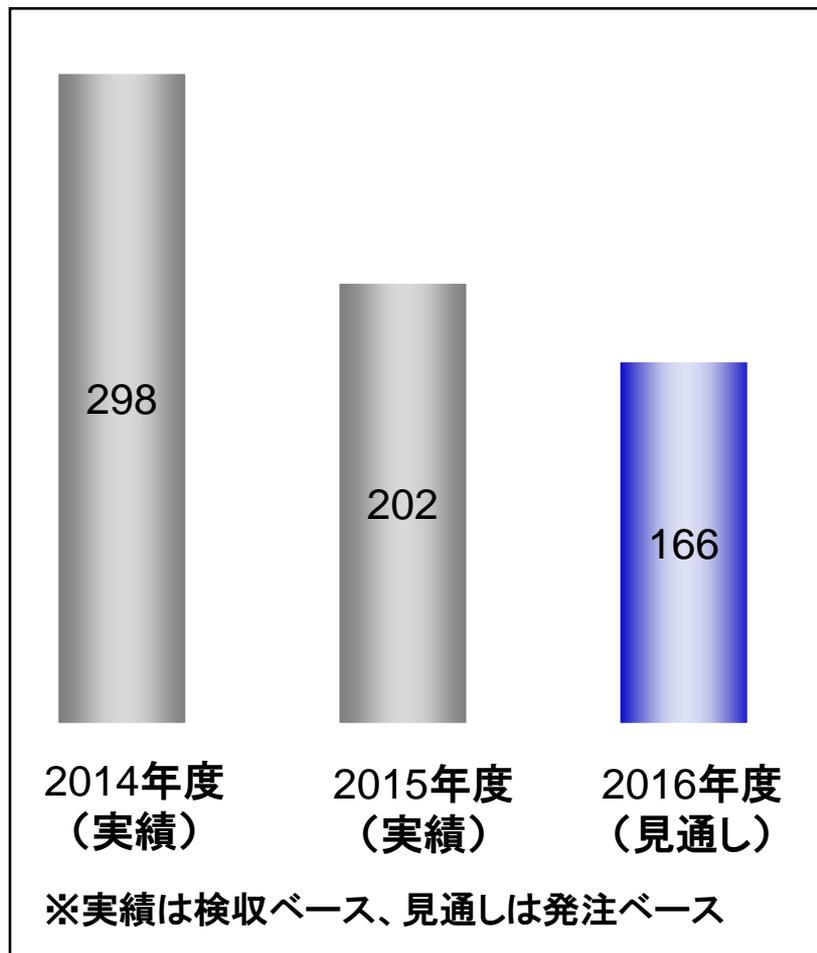


	2015年度 実績 日本基準	売上・ 変動費要因	人件費	償却費	その他経費 改善ほか	2016年度 見通し 日本基準	IFRS 調整	2016年度 見通し IFRS
AC事業	143	△80	+9	△6	+4	71	+14	85
HC事業	△0	+11	+6	+7	+0	21	+5	26
特装等	13	3	△1	△1	+2	18	+1	19
全社	156	△66	+14	+0	+6	110	+20	130

(※1)IFRS調整 :開示区分の変更による影響(持分法投資損益+5億円、等)、および、  
会計処理変更による影響(開発費の資産化、のれん非償却等)

(※2)上記分類とは異なり、全社での為替による営業利益への影響は、△41億円

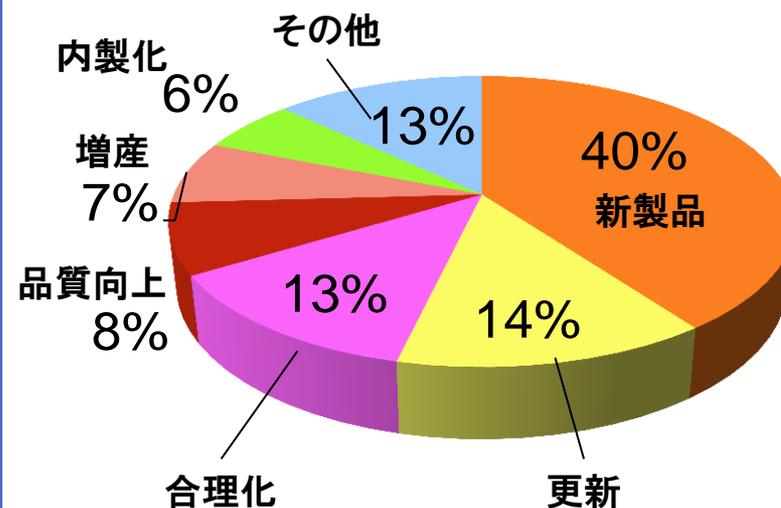
## ■ 設備投資額推移 (単位: 億円)



### ■ 主な設備投資案件

- ・メキシコ SA工場拡張
- ・チェコ 新製品用生産設備
- ・岐阜北 新製品用生産設備

### ■ 設備投資の内訳



## ■ 配当推移

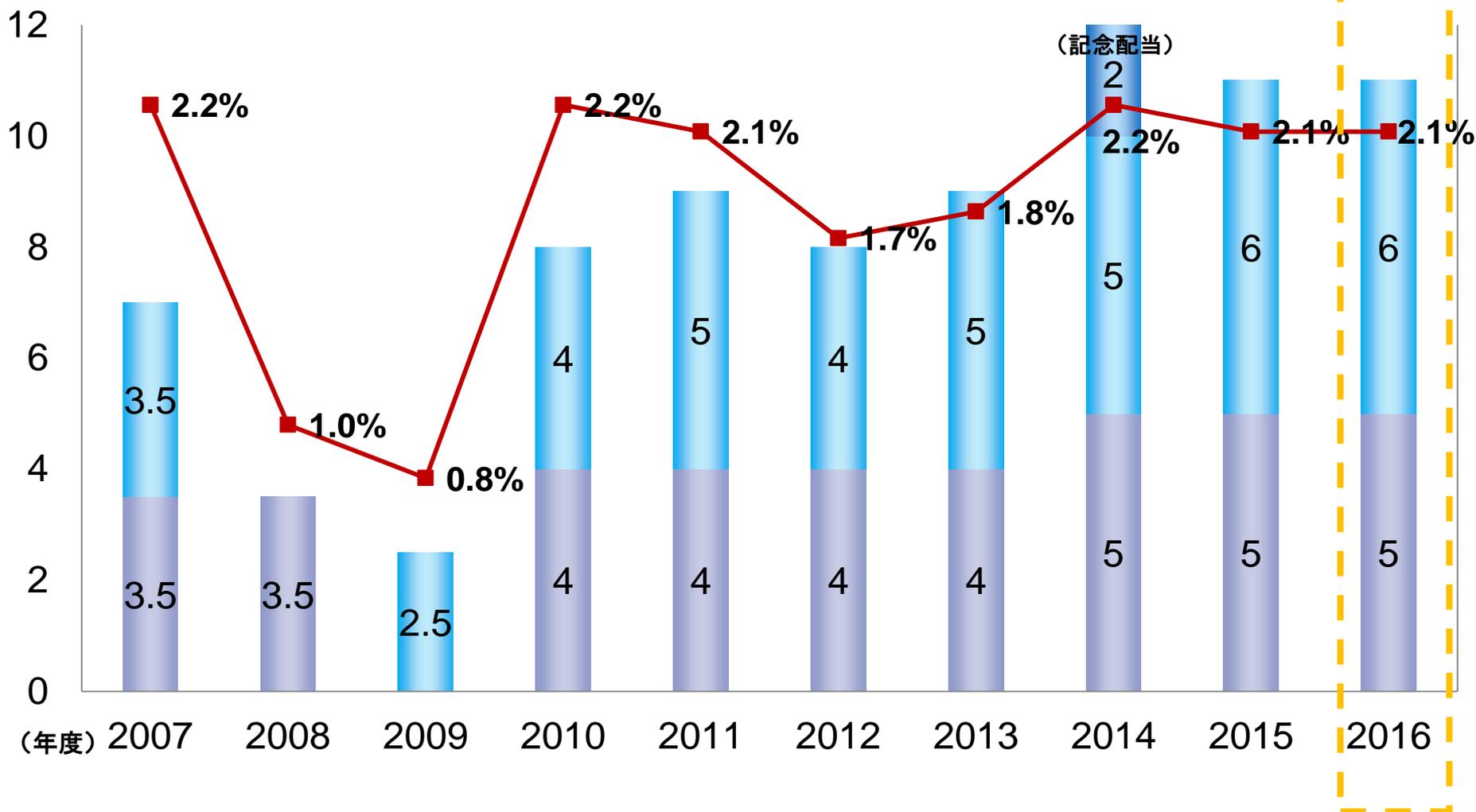
(単位: 円)

■ 中間配当

■ 期末配当

■ DOE (株主資本配当率)

(予想)





*Our Precision, Your Advantage*

**ご注意事項**

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となる場合があることをご承知おき下さい。

お問い合わせ先／取材のお申し込み先  
IR室: 03-3435-3580

# 参考資料 2016年度通期業績予想



Our Precision, Your Advantage

(単位:億円)

			2015年度(日本基準)			2016年度(IFRS)		
			上期	下期	実績	上期	下期	予想
売上高		四輪車用緩衝器	829	797	1,626	750	718	1,468
		二輪車用緩衝器	128	135	263	117	124	241
		四輪車用油圧機器	238	225	463	234	226	460
		その他緩衝器	32	25	57	34	29	63
		A C 事業 計	1,226	1,183	2,409	1,134	1,097	2,232
		産業用油圧機器	411	388	799	390	426	816
		航空機用油圧機器	30	41	71	-	-	-
		その他油機	41	41	82	41	39	80
		H C 事業 計	481	470	951	431	465	896
		特装車両	43	47	90	39	51	91
	航空機用油圧機器	-	-	-	42	38	80	
	装置・電子他	48	55	103	53	69	122	
	特装システム等	90	103	193	134	158	292	
	合 計	1,798	1,756	3,554	1,700	1,720	3,420	
営業利益		A C 事業 計	68	75	143	42	43	85
		H C 事業 計	△ 1	1	△ 0	8	18	26
		特装システム等	6	7	13	5	14	19
		合 計	72	83	156	55	75	130

## 設備投資、減価償却費の推移(連結)

(単位:億円) (予想)

	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度	'16年度
設備投資	100.8	89.2	271.7	392.2	299.1	297.9	202.3	166.0
減価償却費	153.2	134.3	135.1	145.5	172.9	164.9	182.0	180.0

(※)通期設備投資予想:発注ベース 実績:検収ベース

## 有利子負債の推移(連結)

(単位:億円)

	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
有利子負債	981.5	816.4	805.2	929.5	888.1	924.5	912.5

## 研究開発費の推移(連結)

(単位:億円)

	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
研究開発費	28.2	32.2	40.4	54.7	69.2	89.1	81.1

## 従業員数の推移(連結)

(単位:人)

	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
従業員数	10,977	11,440	11,975	12,306	13,033	13,732	13,796

## 為替レートの推移

(単位:円) (予想)

	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度	'16年度
¥/US\$平均レート	92.85	85.72	79.08	83.11	100.24	109.93	120.15	105.00
¥/EUR平均レート	131.16	113.12	108.97	107.14	134.37	138.77	132.57	120.00
¥/CNY平均レート	13.71	12.89	12.38	13.22	16.40	17.73	18.85	16.50
¥/THB平均レート	2.75	2.75	2.58	2.70	3.19	3.38	3.44	3.00
¥/RUB平均レート	-	-	-	2.82	3.03	2.53	1.91	1.30

# 参考資料 地域別売上高



Our Precision, Your Advantage

(単位:億円)

		2014年度				2015年度			
		AC	HC	その他	計	AC	HC	その他	計
日本	上期	361	415	81	858	362	364	77	803
	下期	399	423	103	925	360	356	85	801
	年度	760	838	184	1,783	722	719	163	1,604
欧州	上期	286	26	0	312	271	24	0	295
	下期	258	26	0	284	258	23	0	280
	年度	544	52	0	596	528	47	0	575
米国	上期	166	32	0	198	199	29	0	227
	下期	196	31	0	227	175	31	0	207
	年度	362	63	0	425	374	60	0	434
中国	上期	70	60	0	129	75	37	0	112
	下期	71	59	0	130	80	21	0	101
	年度	141	118	0	260	154	58	0	212
東南アジア	上期	115	8	0	123	122	3	0	126
	下期	129	7	0	136	118	3	0	121
	年度	244	15	0	259	241	6	0	247
その他	上期	167	22	7	196	198	25	13	235
	下期	152	24	10	187	189	40	17	246
	年度	319	46	17	382	387	65	30	481
合計	上期	1,165	563	88	1,816	1,226	481	90	1,798
	下期	1,206	569	113	1,888	1,183	470	103	1,756
	年度	2,371	1,132	201	3,704	2,409	951	193	3,554

基本性能向上・製品ラインナップ充実

安全・安心の追求  
自動化電子制御システム開発本格化

課題・市場の要求	製品	2014～2016年	2017～2020年
低燃費・省エネ 低騒音化 コストダウン 操作性向上 高効率 IOT・ICT対応 電子システム化	ショベル	小型ショベル(9t以下) ・8t用油圧機器強化 中型ショベル(10～39t) ・コントロールバルブ量産化 ・高効率、高出力走行モータ開発 ・高機能シリンダ開発 ・ハイブリッドショベル油圧システム 開発完了	・地域最適化の開発 -廉価版・高機能二極化への対応 ・省エネ追求 -油圧ユニット・システム開発継続 ・付加価値向上 -IOT対応 ・自動化・ICT化対応 -電子制御ユニット・システム開発
	産業車両 フォークリフト	・クローラキャリア用閉回路ポンプ・ モータのセット開発 ・海外フォークリフト向けコントロール バルブ・ポンプ受注・開発	
	農業機械	・無段階走行トランスミッションの製品 化 ラインナップ拡大 ・新興国市場対応のための改良開発	
	鉄道機器	・フルアクティブサスペンションシステ ム開発・製品化 ・セミアクティブサスペンションシステム 普及版開発	

## ■ お客様からの表彰実績(2015年度下期、一部抜粋)

お客様	表彰	受賞内容
トヨタ自動車 東日本様	品質感謝状	品質クレーム目標値達成
日立建機様	優秀サプライヤー 表彰	コスト・品質・納期の三要素での貢献
コベルコ建機様	新機種貢献表彰	新機種に対してQCD競争力のある提案、 立上への貢献
クボタ様	グリーン調達サプ ライヤー表彰	環境に配慮した製品の開発・量産化への貢献
Boeing様	SILVER prize	Boeing Performance Excellence

開示セグメント		事業の主な内訳(※)	当社製品群
A C 事業	四輪車用緩衝器	SA(OE) SA(市販)	四輪車用SA
	二輪車用緩衝器	二輪	フロントフォーク リアクッションユニット
	四輪車用油圧機器	ベーンポンプ CVT用ポンプ EPS	ベーンポンプ、油圧パワステ CVT用ポンプ EPS
	その他緩衝器	ステイダンパ	ステイダンパ
H C 事業	産業用油圧機器	建機 産業車両 農業機械	シリンダ、バルブ、ポンプ、モータ、 ギヤポンプ、MMP、HST
	その他油機	鉄道機器 シール	鉄道用ダンパ、鉄道用ブレーキ シール
その他	特装車両	特装	コンクリートミキサ車
	航空機用油圧機器	航空機器	アクチュエータ、バルブ ホイール、ブレーキ
	装置・電子他	免制震装置 舞台装置 電子機器	免制震ダンパ 舞台装置 ECU、通信端末

**KYB**

*Our Precision, Your Advantage*



**KYB**

*Our Precision, Your Advantage*

